

横浜市住宅供給公社創立50周年記念講演会

団地の未来をデザインしよう

暮らしの再生へ、はじめの一歩



司会進行：フリーアナウンサー
三浦綾子さん
団地の魅力を発信することが必要

コーディネーター：千葉大学大学院工学研究科
小林秀樹教授
郊外における暮らしの拠点に

株式会社AsMama代表取締役
甲田恵子さん
住民のつながりこそ団地の魅力

俳優
八神蓮さん
団地のイメージアップが必要では

横浜市住宅供給公社
浜野四郎理事長
暮らしが豊かになる団地づくりを目指す

三浦 先ほど言ったご近所付き合いが最大の魅力ですね。団地全体が暮らしの中でさまざまな助け合える大きな家族のようでした。八神 家賃などが安いという印象がありますね。浜野 団地の魅力は大きく二つあるのではないのでしょうか。一つは、住宅の中、団地といえども思い浮かぶ近代的なダイニングキッチンなど、当時の日本の住文化にはない、とても画期的なものでした。もう一つは住宅外の広々とした空間、オープンスペースです。子どもたちが安心して遊ばせることができ、子どもをきっかけに親同士の交流やコミュニケーションが生まれる場所、そ

甲田 500円というのは、地域の人間関係が希薄化が進み、職場の近くに住みたい。という人が増えています。そんな中、どうすれば郊外団地を魅力的にできるかが今日のテーマの一つです。甲田さんが取り組まれて

甲田 「子育て世代の共働きの進み、職場の近くに住みたい。という人が増えています。そんな中、どうすれば郊外団地を魅力的にできるかが今日のテーマの一つです。甲田さんが取り組まれて

甲田 「子育て世代の共働きの進み、職場の近くに住みたい。という人が増えています。そんな中、どうすれば郊外団地を魅力的にできるかが今日のテーマの一つです。甲田さんが取り組まれて

甲田 「子育て世代の共働きの進み、職場の近くに住みたい。という人が増えています。そんな中、どうすれば郊外団地を魅力的にできるかが今日のテーマの一つです。甲田さんが取り組まれて

団地の持つイメージとは
小林 まずは、団地に抱くイメージが強いんです(笑)。といわれたくイメージから紹介ください。
甲田 大阪生まれの私は、家族4人暮らし、幼稚園から高校2年まで大阪府寝屋川の団地で育ちました。近所同士、また、子どもたちの関係がとて濃密だったことをよく覚えています。現在は高齢化が進み、子育て世代が少なくなっています。八神 干してある布団のイメージが強いんです(笑)。といわれたくイメージから紹介ください。
甲田 大阪生まれの私は、家族4人暮らし、幼稚園から高校2年まで大阪府寝屋川の団地で育ちました。近所同士、また、子どもたちの関係がとて濃密だったことをよく覚えています。現在は高齢化が進み、子育て世代が少なくなっています。八神 干してある布団のイメージが強いんです(笑)。といわれたくイメージから紹介ください。



歴史や事業の紹介コーナー

甲田 先ほど言ったご近所付き合いが最大の魅力ですね。団地全体が暮らしの中でさまざまな助け合える大きな家族のようでした。八神 家賃などが安いという印象がありますね。浜野 団地の魅力は大きく二つあるのではないのでしょうか。一つは、住宅の中、団地といえども思い浮かぶ近代的なダイニングキッチンなど、当時の日本の住文化にはない、とても画期的なものでした。もう一つは住宅外の広々とした空間、オープンスペースです。子どもたちが安心して遊ばせることができ、子どもをきっかけに親同士の交流やコミュニケーションが生まれる場所、そ

世代で考える「これから」の団地
バネルデイスカッシュン
パネリスト：八神 蓮(俳優)／甲田 恵子(株式会社AsMama代表取締役)／浜野 四郎(横浜市住宅供給公社理事長)／小林 秀樹(千葉大学大学院工学研究科教授) 司会進行：三浦綾子(フリーアナウンサー)

甲田 先ほど言ったご近所付き合いが最大の魅力ですね。団地全体が暮らしの中でさまざまな助け合える大きな家族のようでした。八神 家賃などが安いという印象がありますね。浜野 団地の魅力は大きく二つあるのではないのでしょうか。一つは、住宅の中、団地といえども思い浮かぶ近代的なダイニングキッチンなど、当時の日本の住文化にはない、とても画期的なものでした。もう一つは住宅外の広々とした空間、オープンスペースです。子どもたちが安心して遊ばせることができ、子どもをきっかけに親同士の交流やコミュニケーションが生まれる場所、そ

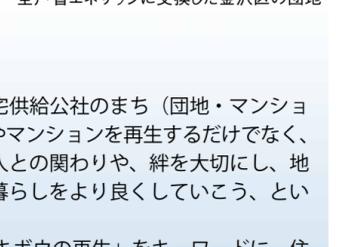
新しい魅力づくりに向け
小林 子育て世代の共働きの進み、職場の近くに住みたい。という人が増えています。そんな中、どうすれば郊外団地を魅力的にできるかが今日のテーマの一つです。甲田さんが取り組まれて

基調講演(要旨)
4月、千葉大学で「日本耐震学会の全国大会が開かれました。そこでテーマの一つになったのが郊外団地の再生です。人口減少の時代、郊外地域の衰退が叫ばれてい

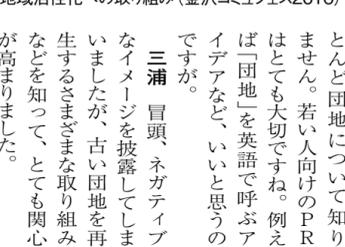
郊外住宅団地の再生と団地コミュニティの活性化事例について
千葉大学大学院工学研究科 小林 秀樹 教授
住宅が集まるという特質を持つ団地は、福祉をはじめとしたさまざまな生活サービスの受けやすさ、郊外の新たな拠点となる多くの可能性を秘めているのです。しかし、もちろんそのためにいくつかの課題があります。私はそれを以下の三つにまとめています。一つは住民の少子高齢化対策です。しかし、考えてみれば高齢化するということは長く住んでいる人が多い、つまり、暮らしやすさ

団地のイメージアップを

その理由はやはりコミュニティの存在です。今、このコミュニティという言葉を共働きのご夫婦、一人暮らしの高齢者など、多くの方が関心を持っています。子育てに限らず防災や生きがいなどの



全戸省エネサッシに交換した金沢区の団地



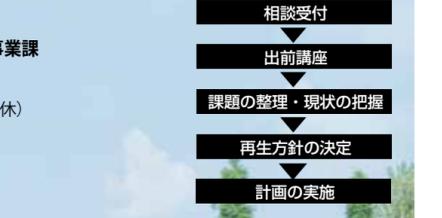
地域活性化への取り組み(金沢コムフェス2016)

暮らし再生プロジェクト

より明るい未来を目指す横浜市住宅供給公社のまち(団地・マンション)再生プロジェクト。高経年の団地やマンションを再生するだけでなく、そこに住む住民が主体となり、人と人との関わりや、絆を大切に、地域コミュニティの活性化を通して暮らしをより良くしていこう、という発想に基づいている。「スマイの再生」「キズナの再生」「キボウの再生」をキーワードに、住まいに関するさまざまな課題解決、豊かなコミュニティの形成、横浜の未来構想などの提案を行っている。

団地再生の進め方

団地・マンションの再生に向けた課題は、建物の老朽化、地域活力の低下やコミュニティの希薄化、管理組合や自治会の担い手不足など広範囲にわたる。「どのように取り組んでいくべきか、まずはご相談を」と同公社では呼び掛けている。



相談・申し込み窓口
横浜市住宅供給公社街づくり事業課
☎ 045(451)7740
9:00～17:00(土・日・祝定休)

profile

小林 秀樹(こばやし・ひでき)：1977年東京大学工学部建築学科卒業。設計事務所勤務を経て同大学大学院に進学。工学博士。建設省建築研究所、国土技術政策総合研究所、住宅計画研究室を経て、現在、千葉大学教授(大学院工学研究科・建築・都市科学専攻)。専門は、住環境計画、住宅問題。日本建築学会賞、清水康雄賞、他受賞。

浜野 四郎(はまの・しろう)：1953年生まれ、神奈川県出身。1979年4月横浜市役所入庁。建築局住宅政策課長、都市計画局みなとみらい21推進部長、政策局長などを歴任。2014年から現職。

甲田 恵子(こうだ・けいこ)：1975年生まれ、大阪府出身。2009年11月に株式会社AsMamaを創業、代表取締役就任。2016年より一般社団法人シェアリングエコノミー協会理事兼着任。メディア掲載・受賞歴多数。

三浦 綾子(みうら・あやこ)：1977年生まれ、東京都出身。新潟テレビ21、テレビ神奈川を経てフリーアナウンサーに。情報番組司会、リポーター、ニュースや選挙特番出演など幅広く活躍。

甲田 団地の魅力が古いまままで止まってしまうという方は多いと思います。団地の魅力をもっと広げていくことがやはり大切だと思います。そのためには、再生プロジェクト「左欄参照」に取り組んでいますが、そこでは古くなった団地のハード面での再生はもちろん、住む人同士の絆や地域コミュニティを通して暮らしを豊かにすることをうたっています。ぜひ甲田さんのようなコ

甲田 団地の魅力が古いまままで止まってしまうという方は多いと思います。団地の魅力をもっと広げていくことがやはり大切だと思います。そのためには、再生プロジェクト「左欄参照」に取り組んでいますが、そこでは古くなった団地のハード面での再生はもちろん、住む人同士の絆や地域コミュニティを通して暮らしを豊かにすることをうたっています。ぜひ甲田さんのようなコ

甲田 団地の魅力が古いまままで止まってしまうという方は多いと思います。団地の魅力をもっと広げていくことがやはり大切だと思います。そのためには、再生プロジェクト「左欄参照」に取り組んでいますが、そこでは古くなった団地のハード面での再生はもちろん、住む人同士の絆や地域コミュニティを通して暮らしを豊かにすることをうたっています。ぜひ甲田さんのようなコ